

R2年度学校評価表

島根県立宍道高等学校

教育目標	教育目標達成のための指針	評価計画		自己評価						学校関係者評価						
		重点目標	目標達成のための方策	担当分掌	評価指標	目標値 [a]	評価値 <定時> [b]	評価値 <通信> [c]	評価値 [d]	達成指数 [e/a]	評価	結果と課題の記述	評価	コメント	次年度への改善策	
調和のとれた感性豊かな人間の育成	自らを理解し主体的に学ぶ意欲を育てる	学力の向上 一人一人の学びを実現し、主体的に学ぶ態度を養う。	わかる学習指導の実践 ○授業の大切さを理解させる ○少人数指導・授業の工夫および改善 ○単位修得率の向上	教務	全講座の平均出席率(定時)	82%	85.0%	-	85.0%	103.7	A	今年度は、5月25日から授業が始まった。前期前半88.3%、前期後半83.0%、後期前半84.8%、後期中間試験以降12月まで84.1%。年間を通じて85.0%となり、昨年度を上回った。教職員の間に、特別な支援が必要な生徒に対する関わり方や授業の方法が浸透し、あらゆる生徒に対して丁寧な指導がなされている結果だと考えられる。また、休校期間が長かったため、学校へ行くという気持ちを生徒が強く持ったことも要因と考えられる。安易な欠課を繰り返す生徒が一定数いるので、それらの生徒に対しての動機づけが課題である。	A	○日々の丁寧な対応・指導がなされていることが平均出席率の向上に繋がったものと思われる。 ○少人数指導を中心とした個々の生徒に合った学習支援がきめ細やかに行われていることにより、生徒は安心感をもって授業を受けることができる。 ○特色のある地域探究活動の推進については、引き続き取組の推進をお願いしたい。今後も生徒のやりたいことを応援できる地域としたい。 ○長期欠席者への対応について、今後も粘り強く取り組んでいきたい。	【定時制教務部】 ・定時制生徒アンケート「学習について」の項目の「授業は興味・関心を持って、分かりやすい」という項目の評価が、他と比べて少し低い。ICT機器の活用など、更なる授業改善につとめ、生徒が興味・関心を持って授業にいくことが課題である。「授業に出てよかった」「授業が分かった」と生徒が感じることが、安易な欠課をなくすことにつながるかと考える。 【通信制教務部】 ・通信制はおよそ8割の生徒が少なくとも1単位以上単位を修得できており、例年より順調に推移しているが、まだまだ学習環境に適應できず、全く学習が進まない生徒も少なからず存在する。担任からのこまめな声かけ、教務からの注意喚起を密にして、生徒が不注意によって単位を落とすことをできる限り減らしたい。そのことにより単位修得率をさらに高めていきたい。	
					少人数指導が自分に合っていると感じている生徒の割合(定時)	90%	96.1%	-	96.1%	106.8	A					昨年度は88.3%であったが、本年度は96.1%と高い数値であった。生徒達は少人数の中で安心感を持って授業を受けていることが分かる。「わかる学習指導を目指した10の視点」の中の「安心感をもって授業」、「自己肯定感をもたせる取組」を意識した授業を教員が行っていることがこの結果に表れていると言える。新学習指導要領では、他者と協働する方が必要になっていくので、少人数でありながらも、「集団を意識した取組」も実践していく必要がある。
					スクーリングやレポート添削の内容に満足している生徒の割合(通信)	90%	-	92.6%	92.6%	102.9	A					前期はコロナ対応で例年に比べスクーリングが少なかったが、総合的に高い水準で生徒が満足していることが示された。通信制の学習システムを理解し、スクーリングやレポート作成をうまく連動させて学習ができている結果と考えられる。教員による丁寧な添削が行われ、生徒を励ますコメントの記述も生徒の満足感に表れていると考えられる。今後も本校生徒にさらに適したレポート作成やスクーリング実施を推進していきたい。
					1単位以上修得した生徒の割合(上段:定時)(下段:通信)	90%	92.8%	-	92.8%	103.1	A					昨年度までは、定時制の方は単位修得率を値としてあげていたが、今年度からは、通信制と同様、1単位以上修得した生徒の割合を評価値としている。令和元年度は89.3%、平成30年度は88.3%なので、今年度は高い数値である。生徒アンケートの「先生は授業で丁寧に教えてくれる」の評価平均が3.3とよいことから、丁寧に授業がなされた結果だと考えられる。長欠者への対応が課題である。
					75%	-	79.8%	79.8%	106.4	A	半期単位認定制度が3年目となり、生徒が単位を修得しやすいという効果が上がっている。1単位以上修得できた生徒は前期76.8%(昨年度76.2%)、後期73.6%(昨年度67.6%)であった。年間を通して最低でも1単位以上修得できた生徒は79.8%(昨年度77.2%)であった。昨年度よりさらに高い数値が得られたのは、コロナ禍による休校の有無を考え生徒が自主的に早めに学習に取り組んだ成果と、半期ごとの単位認定で1年間継続して学習するのは難しいが半期ならなんとか取り組めたという生徒のあきらめない姿勢があったためと考えられる。今後単位が全く取れなかった生徒への様々なはたらきかけを行ってきたい。					
					-	-	+2.6	+2.6	102.9	-						
		教員の指導力の向上・充実 ○授業公開・見学と授業研究の実施 ○10の視点を取り入れた授業の工夫 ○新学習指導要領を見据えた授業の工夫と改善	授業公開回数は授業改善の参考になるとする教員の割合	80%	85.7%	85.7%	107.1	A	第1回を6月下旬、第2回を11月上旬に実施した。「わかる学習指導を目指した10の視点」から授業者が重点を置く点を決めて授業を公開している。主体的対話的で深い学びを意識した「教材の工夫」「動きを取り入れた授業」に重点を置いた授業者が多く、見学者からは、ICTを効果的に使っている授業に刺激を受けたという意見が多く見られた。授業公開をするにあたっては、自分の授業を時間をかけて振り返り、より良いものにしていく貴重なきっかけになっている。また、授業を見学することで多くの学びがあると考えられるので、次年度以降も続けていきたい。次年度の授業公開では、共通するテーマを定時制・通信制各教科ごと、または科目ごとに設定して実践するという形を取ることで、教科の中で授業について考える機会を設けていけるように検討したい。	【図書情報部】 今後も開館時間や利用方法、マナー等をわかりやすく標示し、使いやすい環境を維持する。授業や生徒・教職員のニーズに応える資料を準備していく。 【教育開発部】 次年度も状況に合わせて地域探究活動および貢献活動を地域の協力を得て推進し、まなびのキセキ☆発表会を本校と地域とをつなぐ大切な学校行事として企画していきたい。						
		読書意欲の喚起と利用促進 ○図書整備と資料の充実	図書館を利用しやすいと感じている生徒の割合	80%	88.4%	94.3%	91.4%	114.2	A		昨年度と同様に利用しやすいと感じている生徒の割合は多い。開館時間や利用方法の提示、図書館だより等による効果があると考える。館内では落ち着いた雰囲気の中、読書や自習をしている生徒の姿が見られる。継続してこの環境を維持したい。					
		地域探究活動の推進 ○宍道町を学びのキャンパスとした地域学習の充実	地域に関連する学習に主体的に取り組む、それを通して宍道町について気づきや発見があった生徒の割合	80%	78.6%	-	78.6%	98.3	B		地域探究活動および貢献活動の推進も今年度で三年目となるので目標値を上げた(70%→80%)。わずかに目標値に達しなかったが、コロナ禍により活動が制限される中でも高い評価が出たように思う。今年度の定時制地域ボランティアは、全学年次で宍道町内でのボランティアおよびまち歩きを実施した。その結果宍道町の町に関心を持ってた答える生徒も多かったと思われ、また「わからない」と回答した生徒もH30年度の15%、R元年度の13%から今年度は7%と減った。また各教科の地域関連学習や宍道公民館との連携で行った地域探究部の活動も成果を出した。次年度も地域を題材にした本校らしい探究学習の推進と、地域とつながる取組みの一つとしての地域ボランティアを状況に合わせて実施していきたい。					
		-	+10.6	-	+10.6	97.1	-									
		-	+3.2	+3.2	103.1	-										
		-	+1.2	-0.6	+0.3	113.8	-									
進路の実現	社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。	個々の進路実現に重点を置いた支援 ○ハローワーク、ジョブカフェ等と連携しての就職支援 ○面接指導、作文、小論文などの個別指導の徹底 ○通信制卒業予定生の個別支援の充実	教務	就職・進学など進路先を決定して卒業する生徒の割合(1月末)	80%	84.6%	75.5%	80.1%	100.1	A	1/28現在、卒業予定者162名(定52・通110)中、進路決定者は127名(定44・通83)である。内訳は、進学決定者が66名(定25・通41)で、就職決定者が34名(定10・通24)である。就職決定者の内訳は、新規採用決定者が24名(定10・通14)、既就職者が5名(定0・通5)、アルバイト継続者が5(定0・通5)である。またいわゆる卒業目的(専業主婦・進学浪人等)の者は27名(定9・通18)である。現段階での進路未決定者(進学・就職ともにこれから受験を控えている者)は26名(定8・通18)であり、引き続き、進学・就職決定に向けて支援をしているところである。例年、進学・就職ともに、実際に進路に向けて活動している生徒については、進路実現に近づきつつあると考える。一方、本校の特徴として、卒業を迎える岐路に立つと様々な理由で活動ができなくなる生徒も多いため、引き続き外部機関との連携や、生徒・保護者に寄り添った支援が課題といえる。また、特に定時制については早期の進路に向けての意識付けとして、自己理解や職業・上級学校理解とともに基礎学力を高めていくことの重要性も感じている。	A	【進路部】 ・個々に応じた進路実現のために、少人数指導を活かし引き続き面談等をきめ細やかに、個別に対応していく。また外部機関との連携については、進路部からの教員生徒や保護者にとってありたく、安心につながったのではないかと思う。 ○1月末の前年比が大きく伸びていることに、生徒の意識の変化や先生方の進路指導の的確さを感じる。 ○地域としては、青少年の体験を応援したい。自分は何かが好きで、何が苦手なのかを知ってもらいたい。			
				就職・進学など進路先を決定して卒業する生徒の割合(3月末)	90%	98.1%	97.3%	97.7%	108.6	A	今年度の年度末(3/24)進路状況は、卒業生163名(定52・通111)中、進路決定者は159名(定51・通108)である。内訳は、進学決定者が75名(定28・通47)で、就職決定者が49名(定12・通37)である。就職決定者の内訳は、新規採用決定者が33名(定11・通22)、既就職者が4名(定0・通4)、アルバイト継続者が12(定1・通11)である。またその他(専業主婦・進学浪人・卒業目的等)の者は35名(定11・通24)である。進路未決定者は4名(定1・通3)であり、2名は通信制大学の結果待ち、もう2名は就職活動中である。					
				-	+17.6	+5.6	+11.6	85.6	-							
		系統的な進路指導と望ましい勤労観・職業観の育成 ○キャリアカウンセリングプログラム等による系統的なキャリア教育 ○企業見学、インターンシップ、キャリアガイダンスなどによる体験的な学習の充実	進路	進路学習や適切な進路指導を受けている生徒の割合	85%	87.9%	93.2%	90.6%	106.5	A	今年度は例年行っているキャリアガイダンスやステップアップウィーク(インターンシップ・企業見学等)、卒業生を囲む会等の体験的な学習が全体で実施できなかったため、生徒アンケートの項目からは削除させていただいた。そのため、進路学習についての全体的な評価は下がるとは予想されたが、制約のある中で、より小規模できめ細やかな指導ができたことが、比較的良好な評価につながったのではないかとと思われる。特に定時制では1年次より段階的に組まれている「CCP」において、従来全体展開していたプログラムをクラス単位で行うことになり、教員が新たな視点で授業を見直す結果になったことが功を奏し、生徒へのよい影響が出たと考えられる。ただし、進路に向けての本人の努力についての項目が、生徒自身も保護者からも評価が低いのが今後の課題である。通信制においては昨年度よりは若干低かったものの、非常に高い評価を得ている。これは担任からの個々に対する進路指導とともに、進路部で行う就職・進学別進路講座や模試受験等が、進路を考えるよい刺激となり役に立っていると感じている生徒が多いのだと思われる。今後の継続的な課題としては、定時制では1年次に自己理解や自己肯定感を高めるような仕掛けを増やし、2年次以降は目先の進路決定のための学習にとどまらず、広く将来を見据えた進路目標とその達成のためのやる気や行動力を付けさせるような工夫と指導が一層必要である。通信制では学校へ来ることが少ないカリキュラムの特性上、その中でより細やかな指導をするために外部との連携をより深めながら、校内での連携も深めていく必要性を感じている。	A				
				体験的な学習は進路実現に役立つと感じている生徒の割合	-	+1.8	-1.5	+0.2	113.0	-						
				-	-	-	-	-	-							
生徒・保護者への適切な進路情報の提供 ○碧雲通信・進路だより・ホームページによる情報発信 ○進路のしおりの活用 ○進路相談会の実施	提供された進路情報は役立つと感じている生徒の割合	80%	81.9%	93.1%	87.5%	109.4	A	全員配布の「進路のしおり」、進路相談会や面談時で配布する進路情報誌、それぞれの課程で行われる進路ガイダンスでの資料等、生徒はおおむね良く活用していると思われる。特に学校へ来ることの少ない通信制では「碧雲通信」がタイムリーな進路情報となり役に立っていると思われるが、進路情報が役立つかについて「分からない」という回答が多かったのは卒業予定生でない生徒があまり目を通すことがなかったことによるのではないかとと思われる。今後も引き続き、適切なタイミングで生徒・保護者へ情報提供は行うとともに、HP等を使った発信も検討していきたい。また定時制では今年度から実施の「キャリア・パスポート」の活用を充実させ、生徒の進路実現につなげていきたい。	A							
-	+4.6	-0.3	+2.1	106.7	-											
-	-	-	-	-	-											

教育目標	評価計画				自己評価						学校関係者評価		次年度への改善策			
	教育目標達成のための指針	重点目標	目標達成のための方策	担当分掌	評価指標	目標値 [a]	評価値 <定時> (昨年差)	評価値 <通信> (昨年差)	評価値 [b] (昨年差)	達成指数 [b/a] (昨年)	評価	結果と課題の記述		評価	コメント	
調和のとれた感性豊かな人間の育成	自然や文化を愛し、自分を大切にするとともに、他の人を大切にできる豊かな心を育てる	安全・安心の確保 学校生活において、自らが明るく学び合い、成長し合える環境づくりに努める態度を育てる。	人権・同和教育の推進と人権が尊重される環境づくり ○自己理解、他者理解を通じた自尊心を育む指導 ○人権に関する知識理解と人権感覚の育成 ○いじめを許さない雰囲気づくりと組織的な対応	生徒	自尊感情をもつとともに他者を認め合うことが大切だと考えている生徒の割合	90%	94.4%	93.0%	93.7%	104.1	A	評価値は昨年度とほぼ変わらない。チーム学校としての細やかな指導・支援の効果が出ていると考える。生徒一人ひとりを大切にしたい指導・支援を継続したい。	A	○目標値を大きく超えるなど成果が見られた。やはり生徒一人ひとりを大切にしたい指導や支援を行っているからである。引き続きお願いしたい。 ○チームとして安心・安全の意識を持って取り組んでおられると思う。 ○いじめによって登校できないことがあってはならない。自然を愛すことから始まり、人への優しさにつながると思う。自然体験不足を感じる。 ○いかなる理由があってもいじめをしないこととしている生徒の割合について、意識的な指標ではなく、「いじめの件数」や「いじめが改善された件数」など具体的なものに変わっていくのではないかと感じる。	【生徒部】 ・チーム学校としての指導・支援が、生徒の安全・安心につながるよう、各部署との連携をより緊密にする。 ・定通それぞれの生徒が主体的に取り組む活動の工夫を重ね、いじめを許さない集団づくりをすすめる。 【保健相談部】 ・生徒が心身の健康や環境衛生について正しい知識を得ることができるように、今後も継続的に身近な話題やタイムリーな情報を発信していく。それにより、生徒自身が自分の健康、食生活、環境衛生に関心を持ち、規則正しく安全で安心な日常生活が送れるようにしていく。 ・教育相談員やスクールサポーターによる日々の関わりや、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの専門性により、課題を抱えている生徒のニーズを関係する教職員で情報を共有し、その生徒に応じた適切な支援につなげていく。	
					教育活動において、命や人権に関する学習が役立っていると考えている生徒の割合	80%	88.2%	99.3%	93.8%	117.2	A					目標値の80%を大きく超えた。特に定時制は昨年度より評価が上がった。定通それぞれの部署で、生徒がより主体的に取り組むような工夫を積み重ねた成果と考える。
					いかなる理由があってもいじめをしないこととしている生徒の割合	90%	96.7%	99.3%	98.0%	108.9	A					目標値を変更しており、A評価となった。評価値は、昨年度よりわずかに上がっている。いじめ事案への対応では、該当生徒への継続的な指導・支援を行った。いじめ防止等の対策のための組織について、年度当初に規程を改定し、組織的対応がしやすくなった。
				保健相談	保健相談部だより、一斉メール、保健室前の掲示物等による情報発信 ○健康診断、健康管理簿、日々の健康観察を利用した健康管理の推進 ○健康教育講座の実施	保健相談部だより、一斉メール、保健室前の掲示物等による情報は、自分のからだや健康のことを考える上で参考になると感じている生徒の割合	80%	79.8%	100.0%	89.9%	112.4	A				保健相談部だより、メール一斉配信等により、年間を通じて心身の健康に関する情報提供を行った。今年度は特に新型コロナウイルス感染症に関するメール配信をこまめに行った。また、保健相談部だよりの臨時号を数回発行し新型コロナウイルス感染症に関する情報提供・注意喚起を行った。その他の内容としては、自分のからだのことや健康に関することはもちろん、春から夏にかけては「熱中症対策」、「食中毒注意」、秋から冬にかけては「風邪の予防」等、タイムリーな話題を取り上げ、すぐに生活に役立つ情報提供を心がけた。通信制生徒が極めて高い評価をしている。しかし、定時制の生徒の中には少数ではあるが持ち帰らない生徒がいたり、欠席が多い生徒へはなかなか渡せないこともあった。
					相談活動の充実 ○生徒支援委員会を活用した教職員と教育相談スタッフとの連携 ○家庭や医療機関、専門機関等との連携	学校では、教職員や教育相談員、スクールサポーターの人たちが、悩みや相談に誠意をもって対応してくれていると感じている生徒の割合	80%	85.9%	80.5%	83.2%	104.0	A				スクールサポーター活用事業や教育相談員配置事業に対して、定時制でも通信制でも高い評価が得られた。これは、経験豊富な教育相談員や生徒と近い年齢世代のスクールサポーターによる見守り、生徒との会話・相談の様子を、日々の振り返りや勤務記録簿を活用した情報の共有などで継続的にとらえ、教育相談員・スクールサポーター・教職員等が連携し、それぞれの立場から粘り強く生徒に関わってきた成果であると考える。そして、これらの生徒支援事業が校内に定着してきた結果だともいえる。支援が必要な場合はその都度関係する教職員で情報を共有し対応にあたっては、ケースによっては対応が遅れてしまうこともあり、より早く支援体制を整え、その生徒に合った支援ができることよりよかった。
					読書意欲の喚起と利用促進 ○明るくさわやかな環境づくり ○「図書だより」の充実	生徒1人当たりの年間貸出冊数	年3冊	4.7	-	4.7	156.7	A				臨時休校があったが、通信制の生徒は昨年度並みの利用があった。定時制の生徒は数名の多読者を除き図書館利用者が限られている。11月実施のアンケート結果では4月から10月に1冊も本を読まなかった生徒が定時制41%、通信制37%であり、不読者への働きかけが課題である。
	社会とのつながりの中で自ら考え行動し、自ら律する態度を育てる	自律・自立 基礎・基本を身に付け、自律・自立する態度を育てる。	体育・文化的行事と生徒会活動の充実	行事や活動を楽しむことができたとする生徒の割合	70%	77.1%	69.2%	73.2%	104.5	A	コロナウイルス感染症流行のために、遠足と校内スポーツ大会が実施できなかった。学園祭も変則的な開催となったが、厳しい条件のもとで、生徒の工夫と教職員の積極的参加により、今年度独自のものを実施することができた。この経験を次年度に生かしたい。	A	○挨拶することやルール・マナーを守ることが社会を生きていく上で基本だと思う。指導の徹底をお願いしたい。 ○自己肯定感や自己有用感を大切にしたい支援が行われている。 ○楽しみながらのボランティアをスタートとして探究活動につなげていることはとても素晴らしい。 ○外部ボランティア活動は大きく目標未達ですが、コロナ禍の中、これはやむを得ないと思う。	【生徒部】 ・生徒の自己肯定感を高めるよう、諸行事の内容等を工夫する。 【保健相談部】 ・自分ごみを持ち帰ることは、多くの生徒に浸透しており意識も高いので、今後も継続指導していく。平常の清掃活動は短時間で、できることは限られるが、生徒への声かけや指導を繰り返して、校舎や教室をきれいに大切に使用しようとする環境美化意識を高めていく。 【教育開発部】 定時制の地域ボランティアは今年度の成果を活かしながら、状況に合わせて企画したい。外部ボランティアも状況に合わせて推奨したい。来年度外部ボランティアについては定時制・通信制ともに状況に合わせて目標値を設定したい。		
				全教職員によるルール・マナー指導の徹底 ○校舎内外のハトロールの実施 ○「あいさつ運動」の実施	挨拶ができ、ルールやマナーを守っていると自覚している生徒の割合	85%	84.2%	85.0%	84.6%	99.5	B				昨年度から目標値を引き上げている。昨年度より評価値は上昇したものの、A評価にはならなかった。昨年度に引き続き、携帯電話・スマホの使用について、教員によって指導がまちまちということがないように、教職員の足並みをそろえることに努めたが、この点は次年度以降も引き続き課題である。定時制の生徒は、基本的な生活習慣に関する質問に対して自己評価が低いのが、昨年度よりは評価値が改善している。自己肯定感や自己有用感、コミュニケーション力などを高めるような取り組みを、教育活動全体の中で継続したい。	
				学習環境の整備と環境美化 ○校舎内外の施設設備の点検と環境整備の推進 ○清掃活動やごみの持ち帰りを通じた環境美化への態度の育成	平素の清掃や大掃除に取り組む、ごみの持ち帰りを守っている生徒の割合	80%	84.4%	83.0%	83.7%	104.6	A				ごみの持ち帰りについては、前年度同様、生徒の意識が高いことがわかった。これは開校当初から学校をあげて取り組んでいることであり、定着してきた結果だと考える。ゴミ箱がないことに不便を感じる生徒も居るようだが、引き続きゴミの持ち帰りは徹底させていきたい。一方、平素の清掃に黙々と取り組んだり、熱心に積極的に大掃除に参加したりしている生徒も多い中、アンケート結果としては昨年度以上には向上せず、一昨年より近づいた。各授業後に消しゴムかすは各自教室前方の紙容器へ持って行く習慣は身につけており、それ以上の必要を感じにくいのかもかもしれない。生徒が実施する平素の清掃は、SHRに続く短時間であり、多くの作業をすることは時間的にも難しい。大掃除は年に2回という限られた回数であるが、ルーム単位の活動のひとつとなっている。協働して清掃・美化活動に取り組めるよう、生徒へは様々な機会をとりあげ呼びかけ、その意識を高める必要がある。	
			ボランティア活動の奨励 ○地域ボランティア活動の実施、外部ボランティアの奨励		ボランティア活動は自己理解と社会貢献につながると感じている生徒の割合	90%	91%	83.6%	87.3%	97.0	B				定時制は全学年次で地域ボランティア(清掃活動、実道駅銀河おもてなしデコレーション制作)を実施したことにより今年度の評価値が大きく上がったと思われる。通信制は例年募集される外部ボランティアの多くが今年度は実施されず、参加が困難な状況であった。したがって「わからない」と回答した生徒も22%と高かった。しかしボランティア活動の意義を、多くの生徒が肯定的にとらえていることがうかがえる。今後も生徒に自己有用感をもたせるための効果的な取り組みとして、状況に合わせて積極的に推奨したい。	
					外部ボランティア活動に参加した生徒の人数(年間)(上:定時)(下:通信)	30人	3人	3人	10人	10.0	C				今年度はコロナ禍の影響で多くの外部ボランティアが中止となり、参加できるものが限られた。要害山植林ボランティアに参加した3人のみであった。	
			地域との連携及び地域貢献	地域の人々との交流と学校施設の開放 ○宍道公民館との連携をとる	総務	地域交流活動の年間実施回数	40回	28回	28回	70.0	C				コロナ禍にあって諸行事が続々と取り止めとなる中、地域の皆様のご支援をいただいで実施可能となった活動が左記件数にのぼったことには、感謝の念以外ありません。「まなびの成果発表会」改め「まなびのキセキ☆発表会(今年度会場は本校体育館)」に、昨年度たくさんご参観いただいた宍道町内の皆様をお招きできないことはまことに残念です。	A
学校関連施設の開放	20件	22件				22件	110.0	A	今年度は諸行事中止のため、駐車場開放以外の件数は減少した。							
図書情報	地域の方々の学校図書館の開放 ○地域向け「図書館だより」の内容充実	地域の方々の平均図書館利用回数			目標値は設定しない	12.5人(月)					新規の方も含め一定の利用がある。地域向け図書館だよりの回覧やHPでの公開を行った。					
	設定しない	8.4人(月)														